

# 盆踊り漫遊

竹中尚文

## 第9回 第1部の終わりに

20年ほど前に私は、カリフォルニアのお寺で盆踊りを体験しました。その熱意と行動力に驚きました。日本ではお寺で盆踊りは一般的ではありません。「アメリカでは、なぜお寺で盆踊りが一般的なのか?」と思いました。この疑問については、第2回(『対人援助学マガジン』第33号)で、アメリカでの盆踊りがお寺で始まったことを説明しました。1931年(昭和6年)のことでした。この時代は、日系1世・2世の過ごした頃でした。

本稿の第3回から第8回までは、この1・2世の時代を説明しました。日系2世というのは1910年代から20年代に生まれた人たちです。2000年の頃に私はアメリカで資料を集めるのと共に、2世の人たちに話を聞きました。当時、2世の人たちの年齢が80代や90代でした。

本稿第8回までに、第2次世界大戦までの話を書きました。アメリカでの聞き取りにおいて第2次世界大戦の時の話が中心で、1950年代から60年代の話を十分に聞け

ませんでした。私は数年後にもう一度、戦後の話をじっくりと聞くつもりでした。私事ながら、急に私がお寺の住職になることになって、渡米調査の機会を失いました。

1950年代から60年代にかけてのアメリカの歴史は公民権運動という大きな転換期でした。この運動はアフリカ系アメリカ人の運動と考えられていますが、アメリカの有色人種にも大きな転換期であったようです。この運動に対する意識をそれぞれの日系アメリカ人に尋ねてみたいと思っていました。2000年頃の聞き取りで、公民権運動について少し触れた時、日系2世の見解は一応ではないと知りました。また、3世にも聞き取りをしてみたいと思いました。

また、1990年代のロサンゼルス暴動の時のアジア系アメリカ人の意識を聞いてみたいと思いました。有色人種としてのアジア系の人たちがアフリカ系の人たちと共通の意識を持つのかどうかも知りたいところです。そうして21世紀を迎えたアメリカ社会

は新たな社会を作ろうとしていると思います。私見ではありますが、アメリカ社会を形成する要素として、「人種」よりも「経済力」とか「教育水準」とかを重視するようになってきたと思います。それは、結婚で「人種」を重視するとは限らないことです。そうすることによって、同じ人種の家族ではなくなります。同じ人種の地域社会でなくなります。こうした動きは、日系アメリカ人社会といわれてきたところにも、確実に変化をもたらしています。本稿第1回(『対人援助学マガジン』第32号)で示したクリスマスよりお正月を大切にしている社会が異人種間で共有されるのです。アメリカの浄土真宗においても、

クリスチャンから真宗門徒に変わる方がずいぶんと増えました。こうした動きが今世紀初頭、20年ほど前に始まっていたのです。

アメリカ社会全体では、このような変化はわずかなものです。しかし、このわずかな変化を「人種」が重要な要素と考える人々には許容できないのかも知れません。こうした人々がトランプ大統領を支持してきたようにも思います。私は、アメリカ社会の外にいる人間であります。しかし、このアメリカ社会の変化にはとても興味があります。

また、いつか第2部のための調査と執筆の機会を作れることを望んでいます。